

## 標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット仕様書(ver 1.0)

区分凡例	説明
必須	設定項目にある内容に従い、入力が必要な情報です。
条件付き必須	記載不要条件に合致していれば入力は不要です。それ以外の場合は、設定項目にある内容に従い、必ず入力が必要な情報です。
推奨	入力できない事情(公開できない、情報がない)がない限り、入力を求められる情報です。
任意	情報がない、入力の仕方が分からない、作成が難しいのであれば、入力が不要な情報です。入力は可能だが、公開したくない場合も同様に入力は不要です。
不要	フェリー・旅客船には存在しない、対応する情報がないなどの理由で入力が不要な情報です。

用途	一般的な経路検索サービスに用いた場合にどのように使われるか、経路検索サービスの利用者がどう使うことを想定しているかを例示します。
----	--

情報内容	ファイル名	区分	概要	設定項目	用途
運航事業者情報	agency.txt	必須	運航事業者の基本的な情報を記載します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
agency_id	運航事業者ID	必須	運航事業者を識別するコードです。	運航事業者の法人番号を記載します。 運航事業者が組織内の一部(役所の船舶課、漁連内の部署等)の場合、所属する組織の法人番号とします。 法人番号を持たない組織または個人の場合、「運航事業者名」を入れてください。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
agency_name	運航事業者名	必須	運航事業者の一般的な名称です。	乗客に通常案内している事業者名(ブランド名等含む)を入れてください。 法人登記された正式な法人名である必要はありません。	利用者がサービスで目にする事業者名は、このフィールドに入れた名称になります。
agency_url	運航事業者URL	条件付き必須	運航事業者の公式HPです。	運航事業者が公式HPを持っていれば、そのURLを入れてください。 公式HPを持たない場合、フェリー・旅客船事業についての情報(乗り場、時刻等)を掲載しているHPのURLを入れてください。 記載不要条件：インターネットでの情報公開をしていない。(電話、乗り場、地元観光施設等での案内のみ)	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、そのリンク先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合に参照してもらうためです。
agency_timezone	運航事業者タイムゾーン	必須	運航事業者が拠点置く地点のタイムゾーンです。	フェリー・旅客船情報では、「Asia/Tokyo」を指定します。	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします。
agency_lang	運航事業者言語	必須	運航事業者が主に扱う言語です。	フェリー・旅客船情報では、「ja」を指定します。	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします。
agency_phone	運航事業者電話番号	推奨	運航事業者の電話番号です。	乗船者が問い合わせをする電話番号を入れてください。ハイフンは入れても入れなくても構いません。 問い合わせ専用の電話番号がない場合、運航事業者の代表電話番号を入れてください。	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その問い合わせ先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合にこの番号から電話してもらうためです。
agency_fare_url	乗船券インターネット購入URL	任意	インターネットから乗船券を予約、販売している場合、その予約、販売ページのURLです。	乗船券をインターネット販売しているHPのURLをいれてください。 インターネット販売していない場合は記載不要です。	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その乗船券購入先として設定されます。 利用者がこの航路に載ろうと思った際に、検索結果から乗に購入までいけるようになります。
ageyncy_email	運航事業者連絡用メールアドレス	任意	運航事業者のメールアドレスです。	乗船者が問い合わせをするEメールアドレスを入れてください。 問い合わせ専用のEメールアドレスがない場合、運航事業者の代表Eメールアドレスを入れてください。	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その問い合わせ先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合に参照してもらうためです。
作成例					
agency_id,agency_name,agency_url,agency_timezone,agency_lang,agency_phone,agency_fare_url,ageyncy_email 123456789101,サンプルフェリー,http://www.sample_ferry.co.jp/,Asia/Tokyo,ja,03-1234-5678,,contact@sample_ferry.co.jp					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
港情報	stops.txt	必須	港の情報を記載します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
stop_id	港ID	必須	港を一意に識別するコードです。	港名を含めて分かりやすく、かつ他のstop_idと重複しないようなIDをつけます。詳しくは、下記図1-1、1-2、1-3を参照ください。循環航路など同じ港に複数回寄港する場合、寄港する回数分定義が必要です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_code	港番号	不要	いわゆる駅ナンバリングです。	フェリー・旅客船情報では不要です。	
stop_name	港名称	必須	港の名称です。	港の名前を入力します。港を複数の乗り場に分ける場合でも、港名称はすべて同一の名称にします。	利用者がサービスで目にする港の名称は、このフィールドに入れた名称になります。
stop_desc	港付加情報	条件付き必須	港の特記事項です。湾内に複数の乗り場がある場合に必要となります。	本仕様においては、湾内に複数の乗り場がある場合の乗り場名を入力します。詳細な設定の仕方については下記を参照ください。	港名称に連ねて使用されたり、港の詳細情報を表示した際に表示されません。
stop_lat	緯度	必須	港の緯度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します。 例) 35.691(北緯35度41分27.6秒)	下記図1-1、1-2、1-3を参照	港を地図上で表示する際に港の位置を表すのに使用されます。
stop_lon	経度	必須	港の経度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します。 例) 139.692(東経139度41分31.2秒)	下記図1-1、1-2、1-3を参照	港を地図上で表示する際に港の位置を表すのに使用されます。
zone_id	船賃識別ID	推奨	船賃計算用の港を識別するコードです。	フェリー・旅客船情報では、stop_idと同じ値を入力します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_url	港URL	任意	港/乗り場の案内HPです。	港の案内をするHPがある場合、そのURLを入力します。	港の詳細情報といった画面があれば、そこで使われます。港へのアクセス等、このフォーマットでは規定しておらず、HPには載っている情報への接しやすくなります。
location_type	港区分	任意	港情報が港全体なのか、個々の乗り場なのかを示します。	下記図1-1、1-2、1-3を参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
parent_station	港ターミナル情報	任意	港情報が個々の乗り場の場合に、どの港の乗り場なのかを示します。	下記図1-2を参照	駅名の検索や港の情報では、港全体の情報が使われますが、検索結果や時刻表等では個々の乗り場の情報が使用されます。
stop_timezone	港タイムゾーン	任意	港が存在する地域のタイムゾーンです。	国内の港の場合、「Asia/Tokyo」です。 国外の港の場合、それぞれの国・地域のタイムゾーンを入力します。*1	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします。
wheelchair_boarding	車いす情報	任意	港/乗り場の車いすの対応状況です。	以下の値を入力します。 0：車いすの対応状況が不明な場合 1：車いすのまま乗船可能な港/乗り場だが、事前連絡を要する場合 2：車いすのまま乗船可能な港/乗り場で、事前連絡が不要な場合 3：車いすのままでは乗船できない港/乗り場 4：状態の確認等を要するため、要事前相談	検索結果や港情報の画面で使われ、車いすの乗船者またはその介護者が参照します。 そのほか、サービス作成者が車いす利用者向けの専用機能の作成する際にも有用な情報です。

【図1-1】 港に乗り場が1つしかない場合の港情報の作り方

	以下のように作成します。	
	stop_id	港名と同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_name	港名(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_desc	(入力なし)
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度
	zone_id	港名と同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_url	港を案内するHPのURL
	location_type	0
	parent_station	(入力なし)
	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)
	wheelchair_boarding	乗り場の車いす対応状況に応じた値

※港に乗り場が1つしかない場合は、乗り場の港情報のみ作ってください

【図1-2】 港に複数の乗り場があり、ターミナルが1つの場合の港/乗り場情報の作り方

	港全体		個々の乗り場	
	stop_id	港名と同じ値(例：○○フェリーターミナル)	stop_id	港名+乗り場名(例：○○フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_name	港名(例：○○フェリーターミナル)	stop_name	港名(例：○○フェリーターミナル)
	stop_desc	(入力なし)	stop_desc	乗り場名(例：高速船乗り場)
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度	stop_lat	乗り場の緯度
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度	stop_lon	乗り場の経度
	zone_id	(入力なし)	zone_id	stop_idと同じ値(港名+乗り場名)(例：○○フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_url	港を案内するHPのURL	stop_url	(入力なし)
	location_type	1	location_type	0
	parent_station	(入力なし)	parent_station	港全体のstop_idと同じ値(例：○○フェリーターミナル)
	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)
	wheelchair_boarding	港の車いす対応状況に応じた値	wheelchair_boarding	乗り場の車いす対応状況に応じた値

※港全体を示す港情報と、その港の中にある個々の乗り場を示す港情報をそれぞれ作成します。どちらかのみ作成ではありません。

【図1-3】 港に複数の乗り場があり、ターミナルもそれぞれ存在する場合の港/乗り場情報の作り方

	港全体	
	stop_id	港名+乗り場名(例：○○フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_name	港名(例：○○フェリーターミナル)
	stop_desc	乗り場名(例：高速船乗り場)
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度
	zone_id	stop_idと同じ値(港名+乗り場名)(例：○○フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_url	港を案内するHPのURL
	location_type	0
	parent_station	(入力なし)
stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)	
wheelchair_boarding	乗り場の車いす対応状況に応じた値	

※ターミナル・乗り場ごとに港情報を作成します。

作成例	○○港が図1-1(港に乗り場が1つしかない場合)、××港が図1-2(港に複数の乗り場と1つのターミナルがある場合)、△△港が図1-3(港に複数の乗り場とそれぞれのターミナルがある場合)の例
stop_id,stop_code,stop_name,stop_desc,stop_lat,stop_lon,zone_id,stop_url,location_type,parent_station,stop_timezone,wheelchair_boarding ○○港,,○○港,,36.063,140.221,○○港,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/marumarukou.html,0,,Asia/tokyo,1 ××港,,××港,,36.0611,140.293,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/batubatukou.html,1,,Asia/tokyo,2 ××港+乗り場A,,××港,乗り場A,36.0606,140.293,××港+乗り場A,,0,××港,Asia/tokyo,2 ××港+乗り場B,,××港,乗り場B,36.0610,140.294,××港+乗り場B,,0,××港,Asia/tokyo,2 △△港+第一ターミナル,,△△港,第一ターミナル,36.0724,140.418,△△港+第一ターミナル,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/sankakukou1.html,0,,Asia/tokyo,3 △△港+第二ターミナル,,△△港,第二ターミナル,36.0697,140.419,△△港+第二ターミナル,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/sankakukou2.html,0,,Asia/tokyo,0	

情報内容	ファイル名	区分	概要		
航路情報	routes.txt	必須	航路の情報を記載します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
route_id	航路ID	必須	航路を一意に識別するコードです。	航路名称を含めて分かりやすく、かつ他のroute_idと重複しないようなIDをつけます。 同じ航路でも旅客船と高速船があり運賃が異なる等の場合、route_idを分けて航路情報を作成する必要があります。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
agency_id	運航事業者ID	必須	agency.txtの項目を参照	agency.txtの項目を参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
route_short_name	航路略称	不要	航路の寄港地を含まず簡略に示す名称です。	寄港する港名をroute_long_nameで示すことから、フェリー・旅客船情報においては不要とします。	
route_long_name	航路名称	必須	航路の寄港地を含む名称です。	出発港名～経由港名～最終港名のように寄港する港名を"～"で繋いだ名称とします。あるいは航路を示す名称があれば、その名称をつけます。	利用者がサービスで目にする航路の名称は、このフィールドに入れた名称になります。
route_desc	航路付加情報	任意	航路についての補足説明です。	利用者に伝えたい航路に関する情報（注意喚起など）があれば設定します。	検索結果や時刻表で航路名に続いて、利用者への注意として表示されます。
route_type	交通機関種別	必須	交通機関の種別（バス、電車、フェリーなど）です。	フェリー・旅客船情報では、「4」（フェリー）とします。	検索結果で交通機関の種別を示すアイコンは、この値によって決まっています。
route_url	航路URL	任意	航路を案内する公式HPです。	1つの事業者で複数の航路を運営しており、それぞれの航路の案内をするHPがある場合、そのURLを入力します。 それぞれの航路を案内するHPがない、1つの航路しか運航しておらず、事業者のHPと一致する場合は入力不要です。	航路の詳細情報といった画面があれば、ここで使われます。 航路で使用している船体(特に設備)等、このフォーマットでは規定しておらず、HPには載っている情報への接しやすくなります。
route_color	航路色	任意	航路の軌跡や航路名を表示する場合に背景色となる色の指定です。	航路のシンボルカラーまたは、乗船客に案内している航路図での航路の色を指定します。 色は6桁16進数のRGBカラーで指定します。省略時は白（FFFFFF）となります。 例：FF0000(赤)	検索結果で航路を彩るのに使用されたり、他の航路や交通機関と色での視認性を高めるのに使われます。 そのほか、航路描画を地図上にする場合の線の色として使用されます。
route_text_color	航路文字色	任意	航路名などを表示する場合に用いられる色の指定です。	route_color上に文字を表記したときに見やすい色を設定します。色は6桁16進数のRGBカラーで指定します。省略時は黒（000000）となります。	サービスによりませんが、航路名称の背景に航路色を使う場合に航路名称の文字色として使用されます。 サービスによっては使わないこともあります。
作成例					
route_id,agency_id,route_short_name,route_long_name,route_desc,route_type,route_url,route_color,route_text_color ○○港～x港～△△港,123456789101,,○○港～x港～△△港,4,http://www.sample_ferry.co.jp/timetable.html,0000FF,FFFFFF					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航便情報	trips.txt	必須	運行便の情報を記載します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
route_id	航路ID	必須	routes.txtを参照	routes.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
service_id	運航日ID	必須	calendar.txt/calendar_dates.txtを参照	calendar.txt/calendar_dates.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
trip_id	運航便ID	必須	運航便を一意に識別するコードです。 例) ブレードルフィン：2便+平日	運行便名称と運航日を含み分かりやすく、他のtrip_idと重複しないIDをつけます。 例) ブレードルフィン：2便+平日	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
trip_headsign	運航便行先	必須	運航便の寄港する港です。	その運航便の出発港を除いた、寄港地を寄港順"～"で繋いで記載します。 例) 東京～徳島～北九州の航路の場合 徳島～北九州(下りの場合) 徳島～東京(上りの場合)	検索結果や時刻表でその便の行き先として、運航便名称に続いて使用されます。
trip_short_name	運航便名称	必須	運航便の愛称、名称です。	航路名とは異なるその便固有の名称・愛称を設定します。 フェリー・旅客船情報においては船体名と便番号などを設定します。 例) ブレードルフィン：2便	検索結果や時刻表でその便を利用者が識別する名称として使われます。
direction_id	上下区分	任意	上り下りを分類するコードです。	航路名称で記載した順番に寄港する運航便は、0(下り)を入力します。 航路名称で記載した順番と逆順に寄港する運航便は、1(上り)を入力します。 例) 航路名称「東京～徳島～北九州」の場合 東京→徳島→北九州の順に寄港する運行便：0 北九州→徳島→東京の順に寄港する運行便：1	時刻表で航路の上下別に便と時刻を表示したい場合に、上下の判断をつけるのに使います。
block_id	運航便結合区分	任意	1つの運航便が続けて別の運航便として運行する場合に、運行便の接続をしめすコードです。	便1：港A～港B～港C～港A (港A：12:00着) 便2：港A～港B～港C～港A (港A：13:00発) 便3：港A～港B～港C～港A (港A：14:00発) 便4：港A～港B～港C～港A (港A：15:00発) と運航している航路において、便1の港Cで乗船し、便2の港Bで下船可能な場合に、便1と便2を結合しているとし、便1と便2が結合していることを示すコードを入力します。 このとき便2の港Cから便3の港Bも同様に乗下船可能であれば便1、便2、便3がすべて結合しているとします。  便3と便4の間を通しての乗船ができない場合、便1～便3までが一つの結合区間となり、これらの便に共通のblock_idを設定します。  block_idには、結合区間ごとに"連続"と1から始まる連番をつけてください。 例) 連続1、連続2	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_id	航路描画ID	任意	shapes.txtを参照	shapes.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
wheelchair_accessible	車いす利用区分	任意	その便に用いられる船体の車いす対応状況	0：車いすの対応状況が不明な場合 1：車いすのまま乗船可能な船体だが、事前連絡を要する場合 2：車いすのまま乗船可能な船体で、事前連絡が不要な場合 3：車いすのままでは乗船できない船体 4：状態の確認等を要するため、要事前相談	検索結果や港情報の画面で使われ、車いすの乗船者またはその介護者が参照します。 そのほか、サービス作成者が車いす利用者向けの専用機能の作成する際にも有用な情報です。
bikes_allowed	自転車持込区分	任意	自転車の持込可否の分類コード	0：自転車の持込可否の情報なし 1：少なくとも1台の自転車の持込可能 2：自転車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
payload_id	積載情報ID	任意	payload.txtを参照	payload.txtを参照	
作成例					
route_id,service_id,trip_id,trip_headsign,trip_short_name,direction_id,block_id,shape_id,wheelchair_accessible,bikes_allowed,payload_id ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：1便+全日,××港～△△港,サンプル丸：1便,0,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：3便+全日,××港～△△港,サンプル丸：3便,0,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,平日,サンプル丸：5便+平日,××港～△△港,サンプル丸：5便,0,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,土休日,サンプル丸：5便+土休日,△△港,サンプル丸：5便,0,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：2便+全日,××港～○○港,サンプル丸：2便,1,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：4便+全日,××港～○○港,サンプル丸：4便,1,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,平日,サンプル丸：6便+平日,××港～○○港,サンプル丸：6便,1,,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,土休日,サンプル丸：6便+土休日,○○港,サンプル丸：6便,1,,,0,1,サンプル丸+積載					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
積載情報	payload.txt	任意	乗船客以外の車両や自転車、自動二輪車の積載、持込情報を記載します。 旅客船扱いでこれらの積載、持込ができない場合はファイルは作成不要です。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
payload_id	積載情報ID	必須	積載情報を定義した一意のコードです。	航路の名称を含めて分かりやすく、他のpayload_idと重複しないIDをつけます。 例) 北九州航路_旅客船積載 1	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
car_allowed	車両の積載区分	推奨	車両の積載が可能かを示します。	0: 車両の積載可否の情報なし 1: 少なくとも1台の車両の積載可能 2: 車両の積載不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
car_payload_limit	車両積載可能最大サイズ	推奨	積載可能な車両のサイズを示します。	car_allowedが1の場合に搭載可能な車両の最大サイズをメートル単位で小数点付の数字で記載します。 car_allowedが0または2の場合は、空にします。	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
scooter_allowed	原動機付750cc以上の自動二輪車の持込区分	推奨	原動機付750cc以上の自動二輪車が持込可能かを示します。	0: 原動機付自転車の持込可否の情報なし 1: 少なくとも1台の原動機付自転車の持込可能 2: 原動機付自転車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
motorcycle_allowed	自動二輪車の持込区分	推奨	750cc未満の自動二輪車が持込可能かを示します。	0: 750cc未満の自動二輪車の持込可否の情報なし 1: 少なくとも1台の750cc未満の自動二輪車の持込可能 2: 750cc未満の自動二輪車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
large_motorcycle_allowed	大型自動二輪車の持込区分	推奨	750cc以上の自動二輪車が持込可能かを示します。	0: 750cc以上の自動二輪車の持込可否の情報なし 1: 少なくとも1台の750cc以上の自動二輪車の持込可能 2: 750cc以上の自動二輪車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動二輪車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
payload_desc	積載付加情報	任意	積載に関する補足情報です。	車両の積載について利用者に伝えたい情報を記述します。 例) 特殊な車両は積載できない場合がある、など	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動二輪車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
作成例	車両の積載可能な最大サイズが13m以下の場合は、以下のようになります。				
payload_id,car_allowed,car_payload_limit,scooter_allowed,motorcycle_allowed,large_motorcycle_allowed,payload_desc ○○港～××港～△△港+積載,1,13.0,1,1,1,特殊な車両は運賃が異なったり、割増しになる場合があります。無人航送もお受けいたします。					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航時刻表情報	stop_times.txt	必須	運航便の時刻情報を記載します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trip_id	運航便ID	必須	trips.txtを参照	trips.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
arrival_time	到着時刻	必須	港に到着する時刻をhh:mm:ss形式で記載します。	出発港では出発時刻と同じ値を設定します。時刻は24時間表記です。 夜通し運航する便については、出発港の出港日時を基準とした24時間表記となります。 例) 出発港を夜9時に出港、最終港には翌々日朝10時に到着の場合、58:00:00となります。	検索結果や時刻表で使用されます。 多くの検索システムでは、この時間を「乗船者が港に降り立ち、自由に移動できる時間」と捉えています。
departure_time	出発時刻	必須	港を出発する時刻をhh:mm:ss形式で記載します。	最終港では到着時刻と同じ値を設定します。時刻は24時間表記です。 夜通し運航する便については、出発港の出港日時を基準とした24時間表記となります。 例) 出発港を夜9時に出港、寄港地を翌日朝10時に出港の場合、34:00:00となります。	検索結果や時刻表で使用されます。 多くの検索システムでは、この時間を「船が港を出港する時間 (=この時間までに乗船していればよい時間)」と捉えています。
stop_id	港ID	必須	stops.txtを参照	必ずlocation_typeが0のstop_idを設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_sequence	通過順序	必須	その港に着く順番を記載します。	必ずその便の寄港順に整数を設定する必要があります。数字は1から始めます。 例) 東京～徳島～北九州(下り、左記の順に寄港)の場合は下記の設定になります。 東京の運行時刻情報：1 徳島の運行時刻情報：2 北九州の運行時刻情報：3 この航路の上り(逆順に寄港)の場合は下記の設定になります。 北九州の運行時刻情報：1 徳島の運行時刻情報：2 東京の運行時刻情報：3	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_headsign	運航便行先	不要	表示する行先の港名を設定します。	フェリー・旅客船情報ではtrip_headsignで寄港地の行き先を表現するため、stop_headsignは不要です。	
pickup_type	乗船区分	任意	乗船の可否に関するコードです。	この港から乗船することが可能かどうかなどの設定をします。  0：乗船可能 1：乗船不可能  最終港については必ず1を設定する必要があります。 この港が下船専用である場合や寄港せず通過する場合に1を設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
drop_off_type	下船区分	任意	下船の可否に関するコードです。	この港で下船することが可能かどうかなどの設定をします。  0：乗船可能 1：乗船不可能  始発港については必ず1を設定する必要があります。 この港が乗船専用である場合や寄港せず通過する場合に1を設定します。  この場合の下船とは、寄港地に長時間停泊するため一時的な下船を許可する場合は含まず、乗船客がその港で下船し旅客でなくなることを意味します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_dist_traveled	通算距離	不要	始発港から本港までの距離。(単位はm)	フェリー・旅客船情報では不要です。	
timepoint	発着時間精度	不要	発着時間が計画された時間かどうか設定します。	フェリー・旅客船情報では不要です。	

作成例

1便、2便、3便、4便は毎日運航。5便、6便は平日と土休日で寄港地と時間が異なる場合の例示です。また便によって上下船する乗り場を異なる場合の例示も兼ねています。

trip\_id,arrival\_time,departure\_time,stop\_id,stop\_sequence,stop\_headsign,pickup\_type,drop\_off\_type,shape\_dist\_traveled,timepoint

サンプル丸：1便+全日,10:00:00,10:00:00,○港,1,,0,1,,  
サンプル丸：1便+全日,10:40:00,11:00:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,  
サンプル丸：1便+全日,12:00:00,12:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,  
サンプル丸：3便+全日,17:00:00,17:00:00,○港,1,,0,1,,  
サンプル丸：3便+全日,17:40:00,18:00:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,  
サンプル丸：3便+全日,19:00:00,19:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,  
サンプル丸：5便+平日,24:00:00,24:00:00,○港,1,,0,1,,  
サンプル丸：5便+平日,24:40:00,25:00:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,  
サンプル丸：5便+平日,26:00:00,26:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,  
サンプル丸：5便+土休日,23:00:00,23:00:00,○港,1,,0,1,,  
サンプル丸：5便+土休日,23:40:00,24:00:00,××港+乗り場A,2,,1,1,,  
サンプル丸：5便+土休日,25:00:00,25:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,  
サンプル丸：2便+全日,14:00:00,14:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,  
サンプル丸：2便+全日,15:00:00,15:20:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,  
サンプル丸：2便+全日,16:00:00,16:00:00,○港,3,,1,0,,  
サンプル丸：4便+全日,20:00:00,20:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,  
サンプル丸：4便+全日,21:00:00,21:20:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,  
サンプル丸：4便+全日,22:00:00,22:00:00,○港,3,,1,0,,  
サンプル丸：6便+平日,27:00:00,27:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,  
サンプル丸：6便+平日,28:00:00,28:20:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,  
サンプル丸：6便+平日,29:00:00,29:00:00,○港,3,,1,0,,  
サンプル丸：6便+土休日,26:00:00,26:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,  
サンプル丸：6便+土休日,27:00:00,27:20:00,××港+乗り場B,2,,1,1,,  
サンプル丸：6便+土休日,28:00:00,28:00:00,○港,3,,1,0,,



情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航日区分情報	calendar.txt	必須	曜日単位で運航便の運航状況を設定します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
service_id	運航日ID	必須	運航日を定義する一意のコードです。	<p>運航便(trip)に必ず定義されるコードであり、同一のコードを持つ便は同じ日程で運航する便となります。</p> <p>全日、平日、土日等運航日区分や、航路・船体の名称を含めるなどして分かりやすく、他のservice_idと重複しないIDをつけます。</p> <p>運航日によって船体が変わる場合は船体ごとに定義するなど、作成しやすい単位で定義を分けて作成してください。</p>	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
monday	月曜日	必須		標準的な運航曜日を定義します。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
tuesday	火曜日	必須		0: 運転しない	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
wednesday	水曜日	必須		1: 運転する	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
thursday	木曜日	必須		祝日の運休や追加の運航については後述のcalendar_dates.txtに定義します。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
friday	金曜日	必須		例えば、運航日IDを「平日」とする場合、月曜日から金曜日のフラグに「1」を設定し、土曜日と日曜日に「0」を設定します。後述のcalendar_dates.txtに運休日となる祝日を設定する必要があります。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
saturday	土曜日	必須		運航する曜日が不定な場合は、calendar.txtではなく後述のcalendar_dates.txtに記述します。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
sunday	日曜日	必須			この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します。
start_date	運航日区分有効期間	必須	この運航日IDが有効になる日付けです。	yyyyMMdd形式でこの運航日IDで運行される最初の年月日を示します。 例) 2019年3月1日から運航する場合、「20190301」	多くの経路検索サービスでは、この期間外の日付のとき、運航していませんのとして扱います。
end_date	運航日区分有効期間	必須	この運航日IDが無効になる日付けです。	yyyyMMdd形式でこの運航日IDで運航される最後の年月日を示します。 例) 2019年2月28日まで運航する場合、「20190228」	多くの経路検索サービスでは、この期間外の日付のとき、運航していませんのとして扱います。
作成例					
service_id,monday,tuesday,wednesday,thursday,friday,saturday,sunday,start_date,end_date 全日,1,1,1,1,1,1,1,20190301,20190531 平日,1,1,1,1,1,0,0,20190301,20190531 土日,0,0,0,0,0,1,1,20190301,20190531					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航日情報	calendar_dates.txt	条件付き 必須	祝休日、不定期運航の運航便の運航状況を設定します。 記載不要条件：お盆・年末年始、季節ダイヤ、ドック期間などでも航路自体の運休はなく、運航日区分に従った運行がされる場合。逆に言うと、これらの事情で運航日区分によらない運航・運休（お盆期間は平日でも休日扱いなど）がある場合は、必須となります。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
service_id	運航日ID	必須	calendar.txtを参照	calendar.txtでは運航する曜日を定義出来ますが、特定日は運休/運航する場合、calendar.txtに定義した運航日IDを記載し、このファイルでcalendar.txtの運休/運航日程を上書きする定義を作成できます。 calendar.txtに定義していない運航日IDを新たに定義し、運航日を設定することも可能です。  例) 平日運航の便だが、2019年1月1日の祝日が火曜日のため、運休にする。 決まった運航曜日がないか、隔週火曜日運行など、運行が毎週でなかったり、不定期運航だったりする場合。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
date	日付	必須	適用される日付けです。	yyyyMMdd形式で年月日を示します。 calendar.txtで定義した運航日IDに対して設定する場合は、運航日区分有効期間内の日付である必要があります。	
exception_type	運航、運休区分	必須	運航か運休かを設定します。	以下のコードを設定し、運航するか運休するか設定します。 1：運航 2：運休 なお、2：運休はcalendar.txtに運航日IDが存在する場合のみ設定可能です。	この日付に該当するときのみ、運航状況が変わるとみなし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表で表示しない判断に使います。
作成例	4/29,5/3,5/6が休日及び振替休日のため平日ですが、土休日扱いとしています。また5/22～6/4をドック入りとして、有効期間の5/31までの間すべて運休とする例示です。				

service\_id,date,exception\_type

全日,20190522,2  
 全日,20190523,2  
 全日,20190524,2  
 全日,20190525,2  
 全日,20190526,2  
 全日,20190527,2  
 全日,20190528,2  
 全日,20190529,2  
 全日,20190530,2  
 全日,20190531,2  
 平日,20190321,2  
 平日,20190429,2  
 平日,20190503,2  
 平日,20190506,2  
 平日,20190522,2  
 平日,20190523,2  
 平日,20190524,2  
 平日,20190527,2  
 平日,20190528,2  
 平日,20190529,2  
 平日,20190530,2  
 平日,20190531,2  
 土休日,20190321,1  
 土休日,20190429,1  
 土休日,20190503,1  
 土休日,20190506,1  
 土休日,20190525,2  
 土休日,20190526,2

情報内容	ファイル名	区分	概要		
船賃情報	fare_attributes.txt	必須	乗船客が支払う運賃を設定します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
fare_id	船賃ID	必須	船賃を定義した一意のコードです。	その運賃が有効な港間や航路名など、運賃が適用される区間が分かりやすいよう、かつ他のfare_idと重複しないIDをつけます。 例) 東京～徳島～北九州の航路のうち、東京～北九州間の船賃の場合、「東京～北九州」	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
price	船賃	必須	船賃の金額です。	一般的な利用船賃のみを定義します。 一般的な利用船賃とはおとなの旅客運賃のみ(車両や手荷物の積載、持込賃を含まない)で、もっとも発売数の多い船室の金額を指します。	検索結果で利用者に案内する運賃はこのフィールドの金額となります。
currency_type	通貨	必須	通貨種別です。	「JPY」(日本円)を定義します。	主に海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします。 具体的には検索結果で表示する金額の単位を決めるのに用います
payment_method	支払いタイミング	必須	船賃を支払うタイミングを指定します。	船賃を支払うタイミングを設定します。 0: 下船時に支払い 1: 乗船前/時に支払い(チケット購入含む)	国内の一般的な経路検索サービスではあまり使いません。
transfers	乗換	必須	乗り換え許可回数です。	フェリー・旅客船情報では、「0」とします。	国内の一般的な経路検索サービスではあまり使いません。
agency_id	事業者ID	条件付き必須	agency.txt参照	agency.txtに複数の事業者を設定した場合は必須となります。 この船賃情報を用いている運航事業者の運航事業者IDを記載してください。  記載不要条件: agency.txtに単一の事業者しか設定していない場合は、不要です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
transfer_duration	乗換有効期限	不要	乗り換え有効期間です。	フェリー・旅客船情報では、空白とします。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
作成例	○○港～××港は1,500円、○○港～△△港は3,000円、△△港～××港は2,000円の場合の例示です。				
fare_id,price,currency_type,payment_method,transfers,agency_id,transfer_duration ○○港～××港+乗り場A,1500,JPY,1,0,, ○○港～××港+乗り場B,1500,JPY,1,0,, ○○港～△△港+第一ターミナル,3000,JPY,1,0,, ○○港～△△港+第二ターミナル,3000,JPY,1,0,, ××港+乗り場A～△△港+第一ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場A～△△港+第二ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場B～△△港+第一ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場B～△△港+第二ターミナル,2000,JPY,1,0,,					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
船賃定義	fare_rules.txt	必須	船賃を特定するルールを定義します。 フェリー・旅客船情報では、港/乗り場間で船賃を特定します。 ひとつの事業者が一般的な旅客船と高速船とを運行し、両者で金額が異なる場合、乗り場に紐づけられたzone_idでルールを区別します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
fare_id	船賃ID	必須	fare_attributes.txt参照	fare_attributes.txt参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
route_id	航路ID	条件付き必須	routes.txt参照	記載不要条件：以下の事例に該当しなければ、入力不要です。  ・ひとつの事業者で一般的な旅客船と高速船とを運行するなど、船体や寄港地の差による複数の運賃がある。 ・船賃が異なる航路の乗り場を分けていない。  上記事例に該当する場合、船賃ごとに航路IDを分ける必要があります。それぞれの船賃に該当する航路IDを入力します。 例) 旅客船の航路と、高速船の航路とを分けた場合、この定義が高速船の船賃を特定するためのルールの場合、高速船の航路IDを入力。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
origin_id	乗船港の船賃識別ID	任意	港/乗り場に設定された船賃を特定するためのコードです。	stops.txtにおけるzone_idの値を設定します。 fare_rulesで定義されたorigin_id、destination_idの組み合わせに対して船賃IDを割り当てます(route_idがある場合は、route_id含む)。  origin_id、destination_idの組み合わせに対して割り当てることが可能な船賃IDは1つとなります。複数の船賃IDを設定することは出来ません。 (本情報の現行版では車両を積載した場合の船賃は規定しておりません。)	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
destination_id	下船港の船賃識別ID	任意	同上	同上	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
contains_id	経由情報	不要	船賃を経由した港を含めて識別するコードです。	フェリー・旅客船情報では、不要です。	
作成例					
fare_id,route_id,origin_id,destination_id,contains_id ○○港～××港+乗り場A,,○○港～××港,××港+乗り場A, ○○港～××港+乗り場B,,○○港～××港,××港+乗り場B, ○○港～△△港+第一ターミナル,,○○港～××港,第一ターミナル, ○○港～△△港+第二ターミナル,,○○港～××港,第二ターミナル, ××港+乗り場A～△△港+第一ターミナル,,××港+乗り場A,第一ターミナル, ××港+乗り場A～△△港+第二ターミナル,,××港+乗り場A,第二ターミナル, ××港+乗り場B～△△港+第一ターミナル,,××港+乗り場B,第一ターミナル, ××港+乗り場B～△△港+第二ターミナル,,××港+乗り場B,第二ターミナル,					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
航路描画情報	shapes.txt	任意	航路が海図上で実際に航行するルートを描画するための情報です。 緯度経度の地点間を直線で結び、海図上に航行ルートを描画します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
shape_id	航路描画ID	必須	航行ルートを一意に識別するコードです。	航行ルートは、同一の寄港地であれば同一のIDを割り当てます。 同一の航路でも運航便によって寄港地を通過し、航行ルートが異なる場合は、別の航路描画情報とし、別のIDを割り当てます。 航路名を含み分かりやすく、他のshape_idと重複しないIDをつけます。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_pt_lat	描画緯度	必須	航行ルートを描画する1点の緯度です。 世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します。 例）35.691(北緯35度41分27.6秒)	仕様上、最初のshape_pt_latは始発港の緯度とします。	地図に航路を描画するのに使います。 また経路検索サービスによっては、船の現在地・速度と組み合わせて、船の到着予測を計算するのに使います。
shape_pt_lon	描画経度	必須	航行ルートを描画する1点の経度です。 世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します。 例）139.692(東経139度41分31.2秒)	仕様上、最初のshape_pt_lonは始発港の経度とします。	地図に航路を描画するのに使います。 また経路検索サービスによっては、船の現在地・速度と組み合わせて、船の到着予測を計算するのに使います。
shape_pt_sequence	描画順序	必須	ルートを描画する点の順序を昇順で入力します。	港を出発し、終着港にいたるまでの航行ルートを描画する点を1から順番で整数値で設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_dist_traveled	描画距離	不要	最初の港からの累積距離です。	フェリー・旅客船情報では、不要です。	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航間隔情報	frequencies.txt	不要	運航便が決まった発着時刻によらず、10分間隔等、一定間隔で運航する時刻情報を持つ場合に使用します。 フェリー・旅客船情報では、不要です。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trip_id	運航便ID	必須	trips.txtを参照	stop_times.txtの代わりに設定します。基本的に一定の間隔で運航する場合に作成します。	
start_time	運航開始時刻	必須	運航を開始する時刻です。	午前0時を基準として、hh:mm:ssの24時間表記でその運航間隔で最初に運航を始める便の出港時刻を入力します。	
end_time	運航終了時刻	必須	運航を終了する時刻です。	午前0時を基準として、hh:mm:ssの24時間表記でその運航間隔で最後に運航を始める便の出港時刻を入力します。 その日最後の運航間隔であれば、運航終了時刻を入れます。	
headway_secs	運航間隔	必須	その航路がどの程度の間隔で運航しているかを秒単位で指定します。	運行間隔を秒で設定します。	
exact_times	案内精度	不要	運航間隔が正確かどうかを指定します。	フェリー・旅客船情報では、不要です。	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要	設定項目	用途
乗り継ぎ情報	transfers.txt	任意	港/乗り場間の乗り継ぎに関する情報です。 港に複数の乗り場があり、港で航路を乗り継ぐことが想定される場合に使用します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
from_stop_id	乗継元港ID	必須	stops.txtのstop_idと同じです。	港に複数の乗り場がある場合、そのうち1つの港IDを設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
to_stop_id	乗継先港ID	必須	同上	港に複数の乗り場がある場合、from_stop_idと異なる乗り場の港IDを設定します。  from_stop_idとto_stop_idは方向性があるため、from_stop_idとto_stop_idを設定した乗り場の組み合わせは、from_stop_idとto_stop_idを逆にした定義も合わせて必要です。 例) from_stop_id:「港A+旅客船乗り場」、to_stop_id:「港+高速船乗り場」 from_stop_id:「港A+高速船乗り場」、to_stop_id:「港+旅客船乗り場」 (この逆順の組み合わせが必要)	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
transfer_type	乗継タイプ	必須		異なる乗り場間での乗り継ぎ時の設定をします。  0: 異なる航路を乗り継ぐのを推奨する地点 1: 異なる航路を乗り継ぐのにあたり、乗り継ぎ先の運航便は乗り継ぎ元の便の到着を待って出港する 2: 航路の乗り継ぎが可能だが一定の時間が必要 3: 航路間の乗り継ぎは不可能、推奨しない  設定例) 港A(第1のりば)と港A(第2のりば)間のtransfer_typeを2とする。 便1: 港B→港A(第1のりば) …15:00 着 便2: 港A(第2のりば)→港C …15:15 発  スケジュール上は便1と便2は乗り継ぎが可能であるが、港A(第1のりば)と港A(第2のりば)に乗継タイプ2を設定し、乗継に掛かる時間(手続き等含め)を1800秒(30分)とした場合、乗り継ぐことが出来なくなる。	このフィールドの設定があると経路検索サービスでの運航便の乗継が正確になります。  ない場合、港間の移動に要する時間を考えると本来は乗り継げないのに、あたかも乗り継ぎできるような検索結果がでることもあります。
min_transfer_time	乗継時間	条件付き必須		transfer_typeを2にした場合のみ設定。乗継に掛かる秒数を設定する。 記載不要条件: transfer_typeが0,1,3の場合	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要			
提供情報	feed_info.txt	必須	フェリー・旅客船情報を作成した組織や作成したデータについての情報を記載します。			
フィールド名	日本語名	区分	概要		設定項目	用途
feed_publisher_name	公開組織名	必須	データを公開する組織の名称です。	データを公開する組織の名称を記載します。 運航事業者が他組織に作成や公開を委託した場合、公開を委託された組織の名称となります。運航事業者自身で公開する場合は、運航事業者自身の法人登記名を記載します。		サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
feed_publisher_url	公開組織URL	条件付き必須	データを公開する組織の公式HPです。	データを公開する組織の公式HPを記載します。 運航事業者が他組織に作成や公開を委託した場合、公開を委託された組織の公式HPとなります。運航事業者自身で公開する場合は、運航事業者自身の公式HPを記載します。  記載不要条件：データを公開する組織の公式HPがない場合		サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
feed_lang	データ言語	必須	このデータで主に使われる言語です。	フェリー・旅客船情報では、「ja」とします。		海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします。
feed_start_date	データ有効期間	必須	このデータが正しさを保証できる期間の開始日です。	データに入力した時刻や船賃が正しいといえる期間をyyyyMMdd形式で入力します。		経路検索サービスでは、多くの場合「時刻が正確と保証できる期間」を表示しており、その期間として用います。 この期間に外れる日の場合、calendar.txtの定義ならば、通年おおむね運航しているとみなし、その定義を経路検索や時刻表の表示に用います。
feed_end_date	データ有効期間	必須	このデータが正しさを保証できる期間の終了日です。	データに入力した時刻や船賃が正しいと保証しきれなくなる期間をyyyyMMdd形式で入力します。 通常、ドック期間や燃料価格の変更があるため、それらを計画している期間の最終日となります。		経路検索サービスでは、多くの場合「時刻が正確と保証できる期間」を表示しており、その期間として用います。 この期間に外れる日の場合、calendar.txtの定義ならば、通年おおむね運航しているとみなし、その定義を経路検索や時刻表の表示に用います。
feed_version	フォーマットversion	任意	フェリー・旅客船の標準的な情報フォーマットの対応バージョンです。			経路検索サービス事業者がデータの扱い方の判断として用います。
feed_contact_email	公開組織Eメール	任意	情報を作成、公開する組織のメールアドレスです。	データを公開する組織のメールアドレスを記載します。 このメールアドレスは、公開したフェリー・旅客船情報のデータについて問い合わせを受け付けるメールアドレスとしてください。		経路検索サービス事業者がデータについて確認や疑問があった場合の連絡先として用います。 経路検索サービスの利用者が見える画面では使われません。
feed_contact_url	公開組織問い合わせHP	任意	情報を作成、公開する組織の問い合わせページです。	公開したフェリー・旅客船情報のデータについて、HPでの問い合わせ受付等をする場合にそのURLを入力します。 公開するデータ以外の一般的な問い合わせ対応のページのURLではないことにご注意ください。		経路検索サービス事業者がデータについて確認や疑問があった場合の連絡先として用います。 経路検索サービスの利用者が見える画面では使われません。
作成例	データを作成し公開する会社がサンプルフェリーとは異なる会社の場合の例示です。					
feed_publisher_name,feed_publisher_url,feed_lang,feed_start_date,feed_end_date,feed_version,feed_contact_email,feed_contact_url サンプルフェリーシステム株式会社,http://www.sample-ferry-system.com,ja,20190301,20190531,,opendata@sample-ferry-system.com,http://www.sample-ferry-system.com/ferry_data/contact.html						

情報内容	ファイル名	区分	概要		
翻訳情報	tranlations.txt	必須	港名や航路名など結果に表示される項目の多言語の情報です。日本語名とそのよみまでは必須です。それ以外の英語名等多言語表記については、入力は任意です。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trans_id	翻訳元日本語	必須	翻訳元となる日本語の文字列を入力します。	<p>結果に表示される以下の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>agency_name, agency_url, agency_fare_url</li> <li>stop_name, stop_desc, stop_url</li> <li>route_short_name, route_long_name, route_desc, route_url</li> <li>trip_headsign, trip_short_name, payload_desc,</li> <li>stop_headsign</li> </ul> <p>提供していない項目については、設定不要です。また提供している項目でも多言語の翻訳情報がないものは提供不要です。</p>	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
lang	言語	必須	ja,ja-HrKt,enといった言語略称*2を記入します。	<p>translationsには必ず「ja」(名称)と「ja-HrKt」(よみがな)も定義してください。jaの翻訳先言語(translations)は必ずtrans_id(翻訳元日本語)と同じになりますが、表示する名称をtranslationsのみに依存する処理をする利用者の場合に元の名称が表示されなくなることがあります。</p> <p>以下、代表的な言語指定を記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ja：日本語</li> <li>ja-HrKt：日本語ひらがな、カタカナ</li> <li>en：英語</li> <li>ko：韓国語</li> <li>zh-Hans：中国語簡体字</li> <li>zh-Hant：中国語繁体字</li> </ul>	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
translation	翻訳先言語	必須	翻訳した言語で記載します。	<p>項目の対象言語で記載します。</p> <p>ja-HrKtを指定した項目の場合は、ひらがなでよみを記載します。</p>	<p>利用者に見える画面全般で、元の日本語名称等をこのフィールドに設定した表記に置き換えます。</p> <p>またよみがなについては、経路検索事業者で港名を検索する機能でよみ入力を可能にするために使われます。</p>



## 作成例

trans\_id,lang,translation  
サンプルフェリー,ja,サンプルフェリー  
サンプルフェリー,ja-HrKt,さんぶるふえりー  
サンプルフェリー,en,Sample Ferry  
http://www.sample\_ferry.co.jp/,ja,http://www.sample\_ferry.co.jp/  
http://www.sample\_ferry.co.jp/,en,http://www.sample\_ferry.co.jp/en/  
○○港,ja,○○港  
○○港,ja-HrKt,まるまるこ  
○○港,en,Maru2 Port  
××港,ja,××港  
××港,ja-HrKt,ぼつぼつこ  
××港,en,Batsu2 Port  
乗り場A,ja,乗り場A  
乗り場A,en,Boarding Bridge A  
乗り場B,ja,乗り場B  
乗り場B,en,Boarding Bridge B  
△△港,ja,△△港  
△△港,ja-HrKt,さんかくさんかくこ  
△△港,en,Sankaku2 Port  
第一ターミナル,ja,第一ターミナル  
第一ターミナル,en,Terminal 1  
第二ターミナル,ja,第二ターミナル  
第二ターミナル,en,Terminal 2  
○○港～××港～△△港,ja,○○港～××港～△△港  
○○港～××港～△△港,ja-HrKt,まるまるこ～ぼつぼつこ～さんかくさんかくこ  
○○港～××港～△△港,en,Maru2-Batsu2-Sankaku2 Line  
××港～△△港,ja,××港～△△港  
××港～△△港,en,Batsu2-Sankaku2  
△△港,ja,△△港  
△△港,en,Sankaku2  
××港～○○港,ja,××港～○○港  
××港～○○港,en,Batsu2-Maru2  
サンプル丸：1便,ja,サンプル丸：1便  
サンプル丸：1便,ja-HrKt,さんぶるまるいちびん  
サンプル丸：1便,en,Sample-maru No.1  
サンプル丸：3便,ja,サンプル丸：3便  
サンプル丸：3便,ja-HrKt,さんぶるまるさんびん  
サンプル丸：3便,en,Sample-maru No.3  
サンプル丸：5便,ja,サンプル丸：5便  
サンプル丸：5便,ja-HrKt,さんぶるまるごびん  
サンプル丸：5便,en,Sample-maru No.5  
サンプル丸：2便,ja,サンプル丸：2便  
サンプル丸：2便,ja-HrKt,さんぶるまるにびん  
サンプル丸：2便,en,Sample-maru No.2  
サンプル丸：4便,ja,サンプル丸：4便  
サンプル丸：4便,ja-HrKt,さんぶるまるよんびん  
サンプル丸：4便,en,Sample-maru No.4  
サンプル丸：6便,ja,サンプル丸：6便  
サンプル丸：6便,ja-HrKt,さんぶるまるろくびん  
サンプル丸：6便,en,Sample-maru No.6

\*1 国/地域ごとのタイムゾーン [https://ja.wikipedia.org/wiki/List\\_of\\_tz\\_database\\_time\\_zones](https://ja.wikipedia.org/wiki/List_of_tz_database_time_zones)

\*2 言語略称 <https://www.jana.org/assignments/language-subtag-registry/language-subtag-registry>